

## 第2回看護系大学・大学院生のためのHIV/AIDS看護セミナー

2014年6月28日（土）首都大学東京 荒川キャンパス

### リフレクションシート

#### 1. HIV/AIDS看護の特徴とはどのようなことだと思いますか。

- ・長いスパンで患者の伴走者となるために、信頼関係が大切なのだと思う。でも、性に関することは、他人にはあまり入り込まれたくないことだと思うので、その部分に入らなければならないことは難しいと思いました。
- ・個人の病気、生活、生活の中の“性”をみると、あまり上手な表現ではないですが、他の科と比べるとやっぱりここが一番大きなところかなあと思います。ケアするにあたっては、病気ももちろんみますが、日常生活もよくみて、なおかつその中に「性」も入れて考えなければならない！
- ・長期の服薬支援
- ・性感染症であり、社会の偏見もあることから、本人の病気の受け止めや、告知、プライバシーについて配慮することが必要であること。
- ・立ち入ったお話を伺うことが多いため、一つ一つの言葉や、こちらの行動・表情に気をつけなければならないと思った。（それらがどう看護につながるのかを考える必要がある。）
- ・Ptの気持ち次第で、病気と共に生きていける病気《ファシリテーター》

#### 2. HIV/AIDS看護ケア場面をイメージするとことができましたか？それはどのようなイメージですか？

- ・人と人としての対話を通してケアを提供していく。
- ・できました！色々と現場のお話も聞けましたし、ロールプレイもだったので、だいぶイメージができました。「外来」というとさっとやってさっと終わる、そんな風に思っていましたが、限られた時間の中で効率よく行うのが、外来看護なのだなと思いました。
- ・一对一の看護かつ、長期的な視点とその場で判断して行動にうつす視点（考え方）があり、プライバシーに配慮する点が多い。
- ・ケーススタディをすることで、日頃の看護を考えることができました。《ファシリテーター》

#### 3. このセミナーではどのようなことを得ましたか？または得られなかつたことは何ですか？

- ・ケーススタディを通して、それは何の意味があるのかを深く考えられたのが面白かったです。ロールプレイも、実際にやってみるととても難しく、何のためにどういうケアを提供しているのかを考えることが大切なのだと思います。
- ・得られたことは、知識があれば怖くないということです。Ptに聞かれたときも、自信をもって答えられれば、絶対に強みになる！ということで勉強したいと思います。
- ・ケーススタディでは、他の学生や専門家からの視点で意見が聞けて、自分では気づかなかった点に気

づけた。

- ・ロールプレイを実際に初めて行って、その難しさがわかった。見るとやるとでは、まったく違うことを感じることができた。
- ・先輩の仕事の話が聞けてよかったです。
- ・臨床で行う看護の難しさ。
- ・プロフェッショナルな方たちと学生と一緒に、同じテーマやケーススタディについて考えられて、一つのことに対して様々な視点を得ることができた。
- ・無意識のうちに、Ptを評価し、看護していると改めて気づきました。《ファシリテーター》

#### 4. このセミナーに対する意見（良い点、改善すべき点）があれば書いてください！

- ・ロールプレイよかったです！！専門の方のアドバイスは参考になりました。
- ・次はPhase7までのケーススタディをぜひ！
- ・年に1回ではなくて、定期的に行ってほしいです。次回があれば行きます！！
- ・少人数ならではのアットホームな雰囲気で学べるので、次回も楽しみです。
- ・HIV/AIDSを通してやりたい看護を見つけて、学生さんにも深めていってもらう機会になって欲しいです。《ファシリテーター》



第2回 看護系大学・大学院生のための  
HIV/AIDS看護セミナー